

「日本の誇り、ナショナルアライドだ」

SACLA(さくら、兵庫県佐用町)の稼働まで

1カ月に迫った2月6日。姫路で開かれた記念式典で、開発に携わった理化学研究所(理研)の理事長、野依良治(73)は胸を張った。

さくらに隣接する「スプリンクラ8」が誕生したのは、1997年10月。学術や産業で数々の成果を挙げた放射光の性能は今も世界最高レベルだが、この時、アメリカとドイツでは、次世代の光

▼上

# 夢の光始動

X線自由電子レーザー施設SACLA

に向けた計画が動きだし、500社の総力が、出遅れていた。原子レベルの観察ができるエックス線式典で、開発に携わった理研の理事長、野依良治(73)は胸を張つた。使い物にならない

ツクス線自由電子レーザー(XFEL)の実現まで引き上げる「加速器」(XFEEL)」の実現まで引き上げる「加速器」たのだ。直後に製造はス

の加速管を前に言葉を失つた。使い物にならないた。そこからの立ち直り

ものが何本も含まれてい

は素早く、2年後の納品された。直後に製造はス

は予定より3カ月前倒し

た。窮屈な立場に立たれ、北村は「ものづくりの力」が、最先端の現場に

た。窮屈な立場に立たれ、北村は「ものづくりの力」が、最先端の現場に

## 世界一へ 「技術立国」の真骨頂

だ。の開発を指名されたのトップ。原因を洗い出し、できた。

理研で研究開発の予算が付いたのは2000年。ノーベル賞を受ける研究者新竹積年に、<sup>新竹積</sup>は秀才ぞろいの理研で「加速器の天才」の異名を持つ研究者新竹積年。

計算もし直したが、半年たっても解決の糸口は見えたなかつた。

う精度で、施設の心臓部

の3カ月後には、光の波長でも一足先に完成した

也(58)は言う。「挑戦を

続けて日本の技術は磨かれた。さくらを造った技術も、日本の底力を高めることだ。世界一の技術を頂だ。世界一の技術を

だ。

(古根川淳也)

は、秀才ぞろいの理研で「加速器の天才」の異名を持つ研究者新竹積年。

三浦は新竹の発想には「アンジュレーター」を手掛けた。学生のころ工

作機械室に通い、工具を習つて出ただけに、担当を買って出ただけに、手掛けた。学生のころ工

作機械室に通い、工具を習つて出ただけに、手掛けた。学生のころ工

作機械室に通い、工具を習つて出ただけに、手掛けた。学生のころ工

だ。の開発を指名されたのトップ。原因を洗い出し、できた。

は、秀才ぞろいの理研で「加速器の天才」の異名を持つ研究者新竹積年。

計算もし直したが、半年たっても解決の糸口は見えたなかつた。

う精度で、施設の心臓部

の3カ月後には、光の波

長でも一足先に完成した

也(58)は言う。「挑戦を

続けて日本の技術は磨かれた。さくらを造った技

術も、日本の底力を高め

るはずだ」=敬称略

(古根川淳也)

4面に「さくら」  
の解説特集